

世界に誇れる、ものづくり

2023年12月期第3四半期

決算説明資料

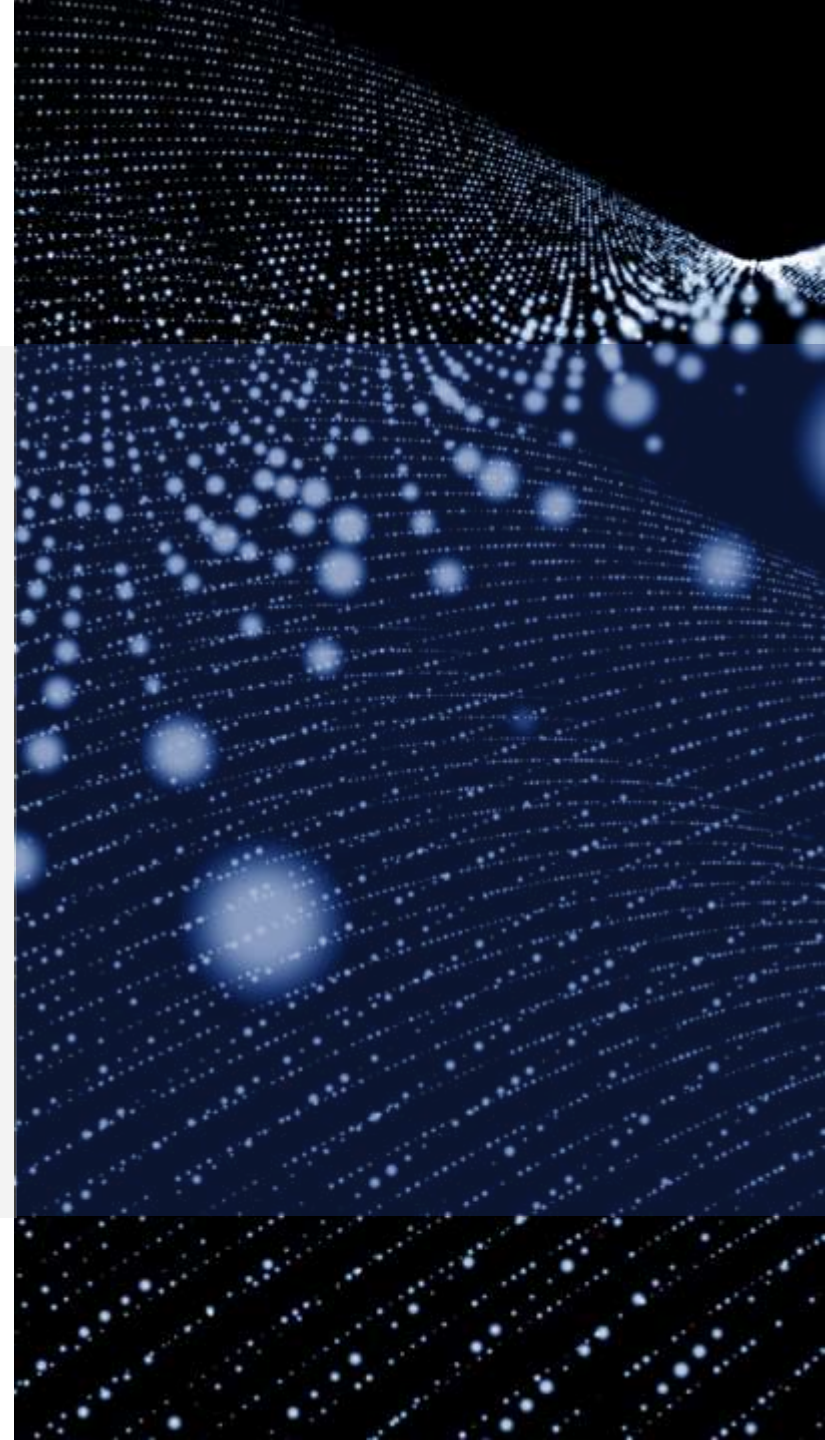
湖北工業株式会社

2023年11月9日

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーで

目次

I.	2023年12月期3Q決算概況	P. 2
II.	セグメント別の状況	P. 12
III.	参考情報	P. 29



I. 2023年12月期3Q決算概況

2023年12月期(3Q累計)のハイライト

- ・リード端子事業において、過剰在庫の調整が続いた。実需は、3Qでは自動車関連市場向けは大きな数量の変化はないものの、ICT・民生向けの数量の落ち込みが大きい
- ・光部品・デバイス事業において、海底ケーブル向け光デバイスの売上は、サプライチェーンが回復しているものの、納入先の調達先送りなどの影響を受けた

● マクロ環境

- ・ 世界経済は、中国における景況悪化や欧米の金融不安などにより停滞局面入り
- ・ エネルギー価格などの物価上昇や、ロシア・ウクライナ情勢など地政学リスクの影響が続く
- ・ アフターコロナの流れの中、小売り・サービス業等一部では改善の動き

● 事業環境

- ・ 中国ではEVの値下げによる販促で販売好調だが、自動車市場全体ではマイナス成長
- ・ アルミ電解コンデンサなどの一部電子部品は、過剰在庫の調整が長引き夏以降も低迷が続く
- ・ PCをはじめとする情報通信機器市場などは、昨年夏からの厳しい状況から回復せず
- ・ 海底ケーブル市場向けは、昨年夏からのサプライチェーンの混乱は収束したが敷設プロジェクトの変更・遅延の影響あり

● 業績 (3Q累計)

- ・ 市場環境悪化の影響を受け、売上は前年同期比13.0% (△1,546百万円) の減収
- ・ 営業利益については、売上減少、販売費及び一般管理費の上昇により前年同期比26.3% (△820百万円) の減益

損益計算書(3Q累計)の概要

前年同期と比較し、両事業ともに減収の影響が大きく、営業減益にて着地

(単位：百万円)

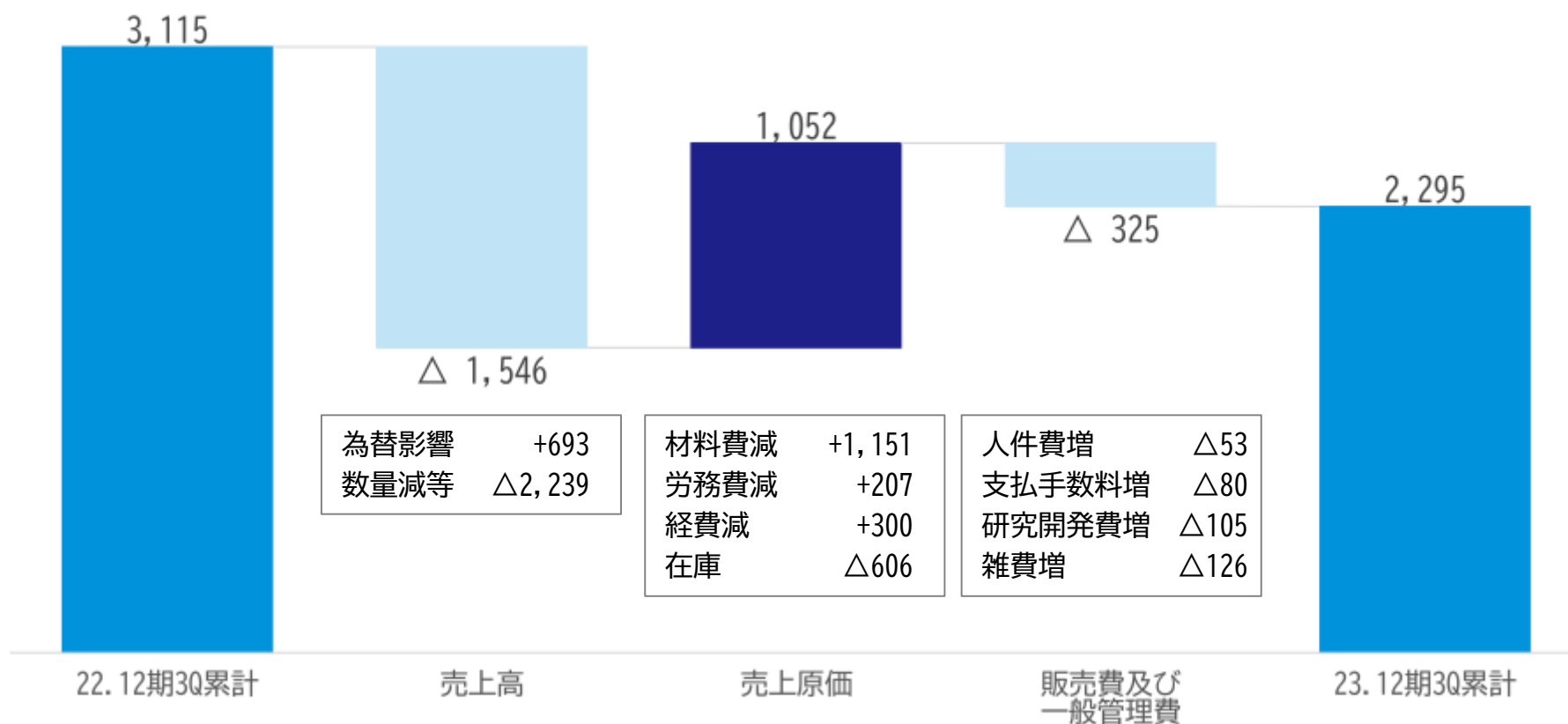
	2022.12期	2023.12期		2023.12期			
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比
売上高	11,901	10,355	△1,546 △13.0%	3,521	3,502	3,331	△171 △4.9%
リード端子事業	6,312	5,580	△731 △11.6%	1,864	1,924	1,791	△133 △6.9%
光部品・デバイス事業	5,589	4,774	△814 △14.6%	1,656	1,577	1,539	△38 △2.4%
営業利益	3,115	2,295	△820 △26.3%	846	839	608	△230 △27.5%
営業利益率	26.2%	22.2%	△4.0pt	24.0%	24.0%	18.3%	△5.7pt
経常利益	4,088	2,973	△1,115 △27.3%	882	1,302	787	△514 △39.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,693	1,723	△969 △36.0%	564	779	379	△399 △51.3%
為替レート (期中平均)	128.30円/\$	138.24円/\$		132.40円/\$	137.49円/\$	144.63円/\$	

- ・リード端子の価格是正と光部品・デバイスのプロダクトミックスの変化により限界利益率が改善したが、売上高の減少に伴う固定費比率の上昇により、3Q累計(1-9月)の営業利益率は22.2%まで低下
- ・営業外収益として為替差益712百万円(前期3Q累計932百万円)を含む

営業利益(3Q累計)の増減要因 (前年同期比)

価格是正及び、プロダクトミックスの変化により限界利益率が改善したが、売上減少により減益

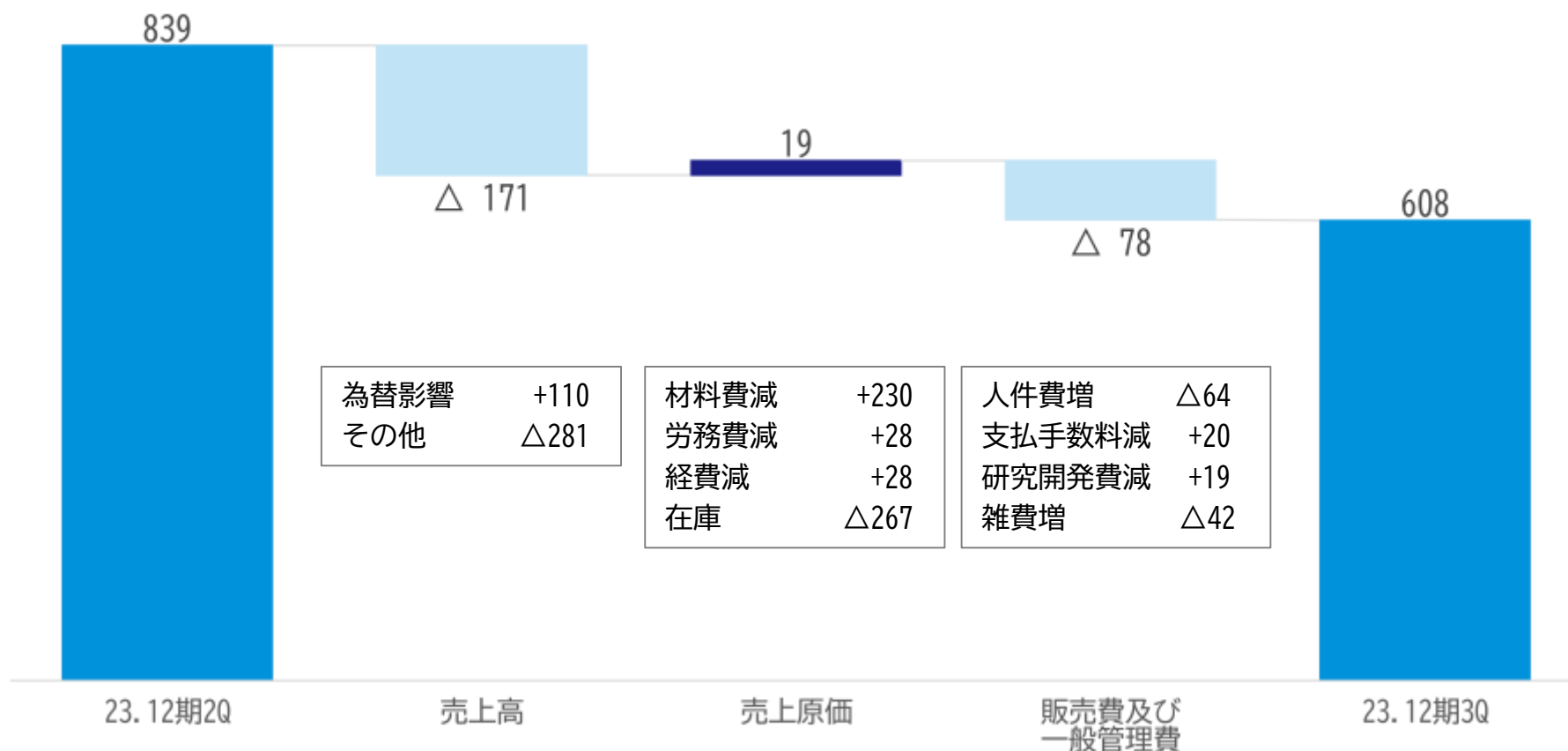
(百万円)



営業利益(3Q)の増減要因（前四半期比）

市場の調整と中国蘇州工場の移転に伴う稼働停止による稼働率悪化の影響を受けた

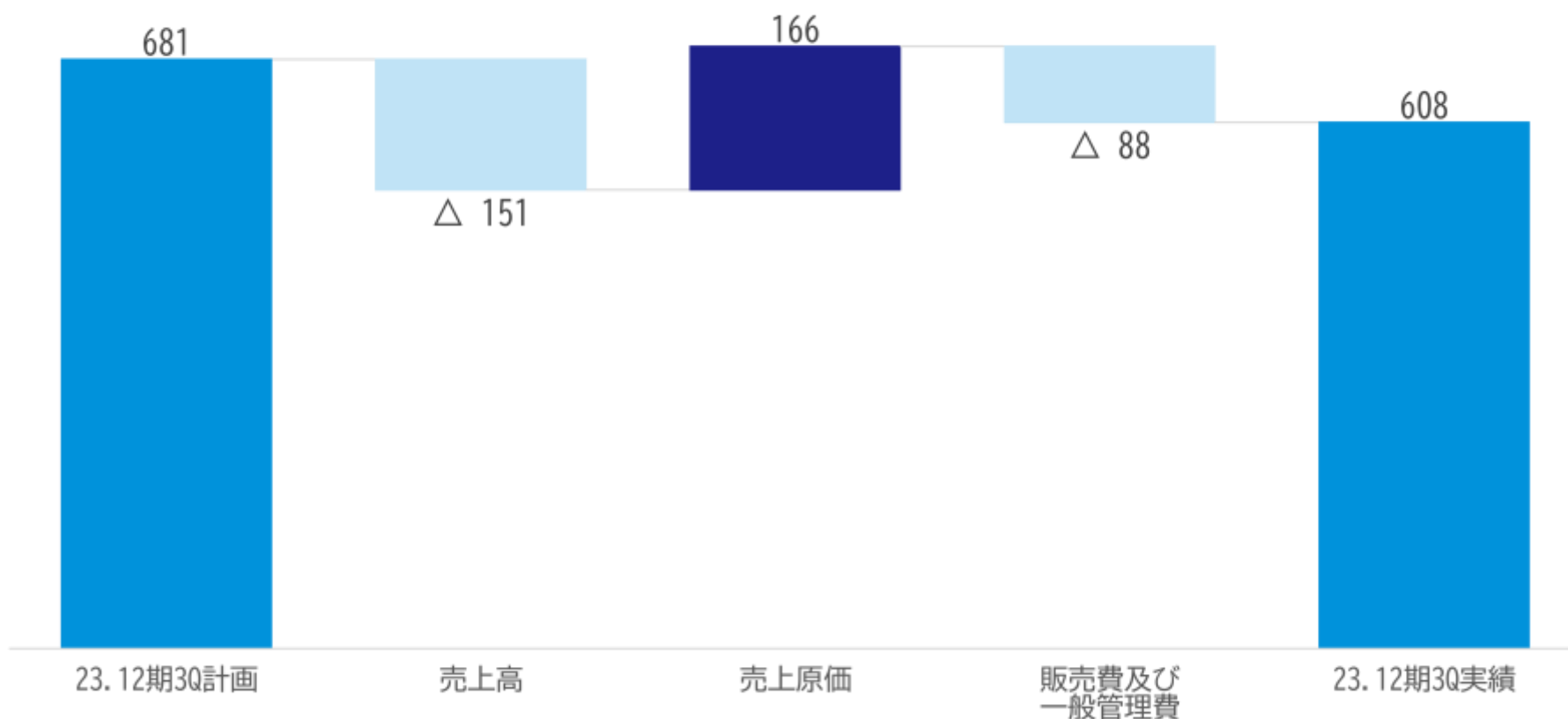
(百万円)



営業利益(3Q(7~9月))の増減要因 (計画比)

予想より市況の落ち込みが大きく、売上の減少が影響

(百万円)



貸借対照表 (3Q)

負債の減少、利益剰余金の増加により、自己資本比率が79.4%に上昇

(単位：百万円)

貸借対照表	22.12期末	23.12期3Q末	増減額	主な増減項目
流動資産	17,227	17,121	△106	現金及び預金 +394 電子記録債権 △41 受取手形及び売掛金 △347 原材料及び貯蔵品 △60
固定資産	7,057	8,229	+1,171	建物及び構築物 +514 建設仮勘定 +217 機械装置及び運搬具 +142
資産合計	24,285	25,350	+1,065	
流動負債	3,375	2,915	△460	買掛金 △277 短期借入金 △95 1年内返済予定の長期借入金 △101 未払法人税等 △114
固定負債	2,613	2,296	△316	長期借入金 △443 リース債務 +78
負債合計	5,988	5,212	△776	
純資産合計	18,296	20,138	+1,842	利益剰余金 +1,229 為替換算調整勘定 +592
負債・純資産合計	24,285	25,350	+1,065	

2023年12月期業績の見通し

(業績予想の修正なし)

- ・リード端子事業における過剰在庫の調整は最終局面
- ・光部品・デバイス事業は第4四半期に向けて売上改善を期待

(単位：百万円)

	2022年12月期 実績	2023年12月期 (計画)			
		通期当初予想	通期修正予想 (8月)	通期修正予想の前期実績比	
売上高	15,673	16,494	14,490	△1,182	△7.5%
リード端子事業	8,384	9,162	7,508	△875	△10.4%
光部品・デバイス事業	7,289	7,331	6,981	△307	△4.2%
営業利益	3,884	4,121	3,411	△473	△12.2%
営業利益率	24.8%	25.0%	23.5%	△1.3pt	—
経常利益	4,443	4,084	3,363	△1,080	△24.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	2,819	2,157	△909	△29.7%
1株当たり当期純利益 (円)	346.14	313.41		<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益40百万円/円	
為替レート (期中平均)	131.64円/\$	130円/\$	130円/\$ (下期)		

現在の状況と今後の見通し

<売上高面>

- ・リード端子事業では、8月時点の見通しに対して市場の回復が遅れたが調整は最終局面との見方
- ・光部品・デバイス事業では、陸上用光部品は厳しい状況が続く見通し。海底ケーブル用光デバイスはプロジェクトの変更・遅延の影響を受けているが、長期一括受注の効果により第4四半期に向けて改善傾向

<利益面>

- ・リード端子事業は、実需の想定以上の悪化により厳しいが、蘇州工場の移転完了に伴う稼働改善により第4四半期は営業利益改善の見通し
- ・光部品・デバイス事業は、プロダクトミックスの変化による利益率改善が売上減少によるマイナス分の下支え要因として寄与
- ・円安による為替差益の発生により、経常利益・当期純利益については、業績予想に対する進捗率は高め

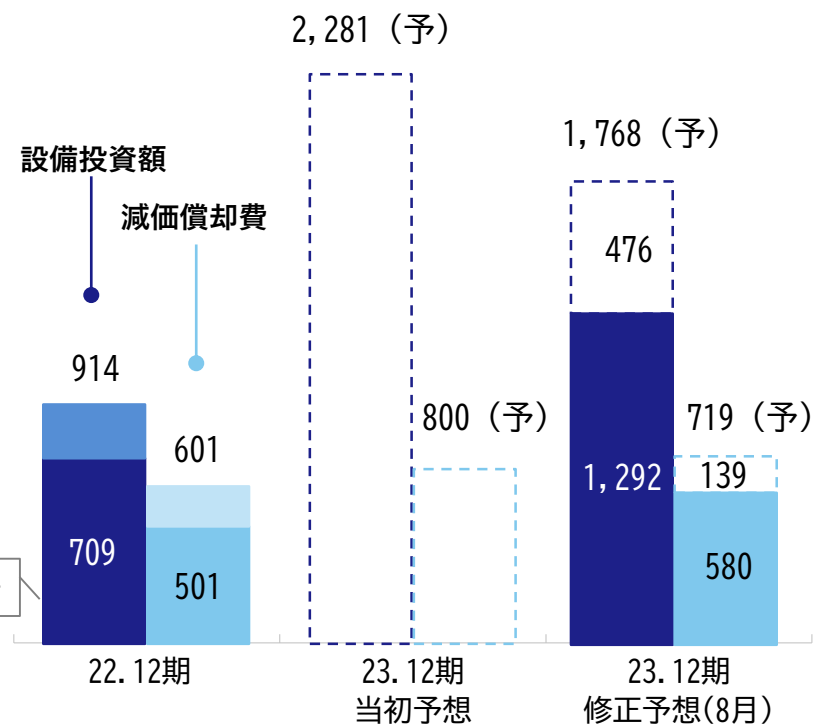
設備投資・研究開発費

修正予想に沿って、計画通り設備投資を実行

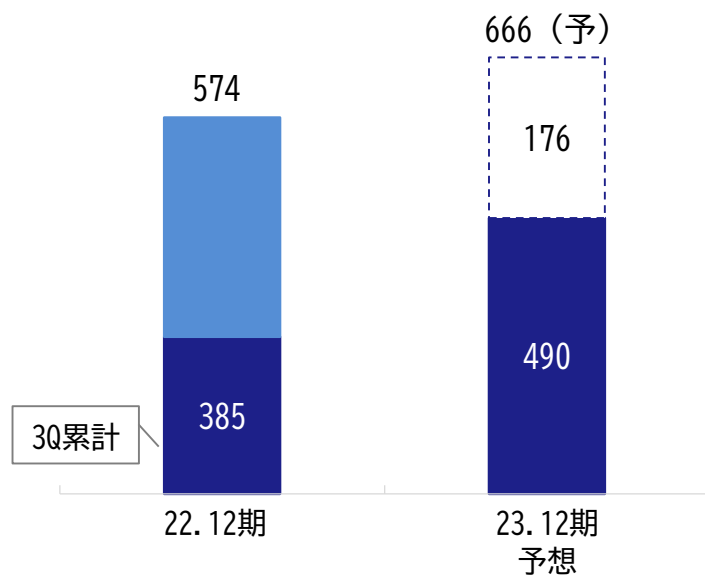
設備投資・減価償却費（百万円）

設備投資額
 ■ 4Q予想
 ■ 3Q累計実績

減価償却費
 ■ 4Q予想
 ■ 3Q累計実績



研究開発費（百万円）



中期経営方針に関する進捗状況

変化点をマーキング

・基盤事業(リード端子)の収益力強化を実現する

- 2023年4月から、不採算アイテムについての価格是正を実行、**限界利益率は改善**
- 新商品売上比率は**主力の「バリレス」の評価が徐々に進展**

・成長事業(光部品・デバイス)のシェア拡大と新製品開発を実現する

- 海底ケーブル敷設会社各社の開発計画に合わせて、全方位の製品開発が順調に進捗
- 2030年以降のMCF普及を見据えた研究強化、成果発表等実施（KDDIと共著論文など）

・コア技術を活用した次世代事業を育成する

- 高純度石英ガラス製品の事業化に向けて、製造技術開発と顧客対応を継続
- 紫外線用非球面レンズの量産供給を23年7月から開始
- **半導体製造装置、ファイバレーザ顧客向けにサンプル出荷、量産に向けて評価開始**

・経営管理体制を強化し、強固な利益体質を構築する

- 非財務に関する活動推進体制強化、**サステナビリティ推進組織立ち上げ（10月）**
- IT基幹システムの再構築、サイバー攻撃対応など、内部管理体制強化を推進

Ⅱ. セグメント別の状況

セグメント別業績(3Q累計) - リード端子

ICT・民生向けの調整が長期化、欧州車載関連市場も調整が続き、7-9月はセグメント利益は赤字に
(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期		2023年12月期					
	3Q (1月-9月)	3Q (1月-9月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	6,312	5,580	△731	△11.6%	1,864	1,924	1,791	△133	△6.9%
営業利益	267	61	△205	△77.0%	28	128	△95	△224	—
営業利益率	4.2%	1.1%	△3.1pt	—	1.5%	6.7%	△5.4%	△12.0pt	—

2023年12月期 (3Q累計) の概況

- **市況の回復が想定よりも遅れ、厳しい事業環境**
 - ・ EVの普及率は上昇傾向だが、過剰在庫と中国での自動車販売低迷が悪影響
 - ・ ICT、民生向けについても落ち込みが深刻
- **当社の状況と収益改善への取り組み**
 - ・ 不採算製品の価格是正について、全顧客と原則合意の上4月に価格改定を実行、収益構造改善効果
 - ・ 新商品「バリレス」は、各メーカーより高評価を受けており、採用決定が徐々に増加
 - ・ 高効率・高精度を実現する新しい溶接技術、金型技術の開発への取り組みを継続

市場環境、経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	当初（2月時点）コメント	8月（第2四半期決算発表）時点の状況	現在の状況と今後の見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 (主に日系顧客の状況)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年は、2022年に対して車載向けは半導体不足が続き今年前半は微増、後半は回復、非車載分野は微減と予想 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 従来製品は、景況感の悪化により、下押しとなった。車載向けハイブリッドコンデンサの増産中止もあった 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 当面、厳しい状況が続くとの認識で各コンデンサメーカーが減産を継続 ➢ 中国自動車市場の低迷及びサプライチェーン全体における過剰在庫により調整が大きい
	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信機器分野は、中国市場の回復遅れで、今年前半は厳しい状況が続き、下期から少しずつ回復と予想 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中国の景況感悪化もあり、情報通信機器市場の停滞はしばらく続く見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 情報通信機器、民生市場も停滞続く ➢ 中国の景況悪化もあり、少なくとも来年前半までは調整が続くと予想
(2) 用途別の動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車市場向けハイブリッドコンデンサが約30%増（一部既存市場を置き換え） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中国、欧州自動車市場向けの需要が増加せず、2Q時と比べて同様の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コンデンサ各社が24年に向けてハイブリッドコンデンサの生産能力を増強、成長軌道に戻る
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車市場は全体は微増だが、EV市場は大きく伸びると想定される 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自動車の回復が遅れる欧州、中国において新エネルギー車は順調に拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 特に中国で自動車市場は厳しい状況が続き、過剰在庫の解消は来春以降となる可能性
	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT市場について、PC、サーバー、スマートフォン市場は今年前半までは低迷が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ PC、サーバー、スマートフォン向けは厳しい状況が年末或いは来年前半までかかる見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ICT、民生共に、来年春まで厳しい状況続く見通し

市場環境、経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

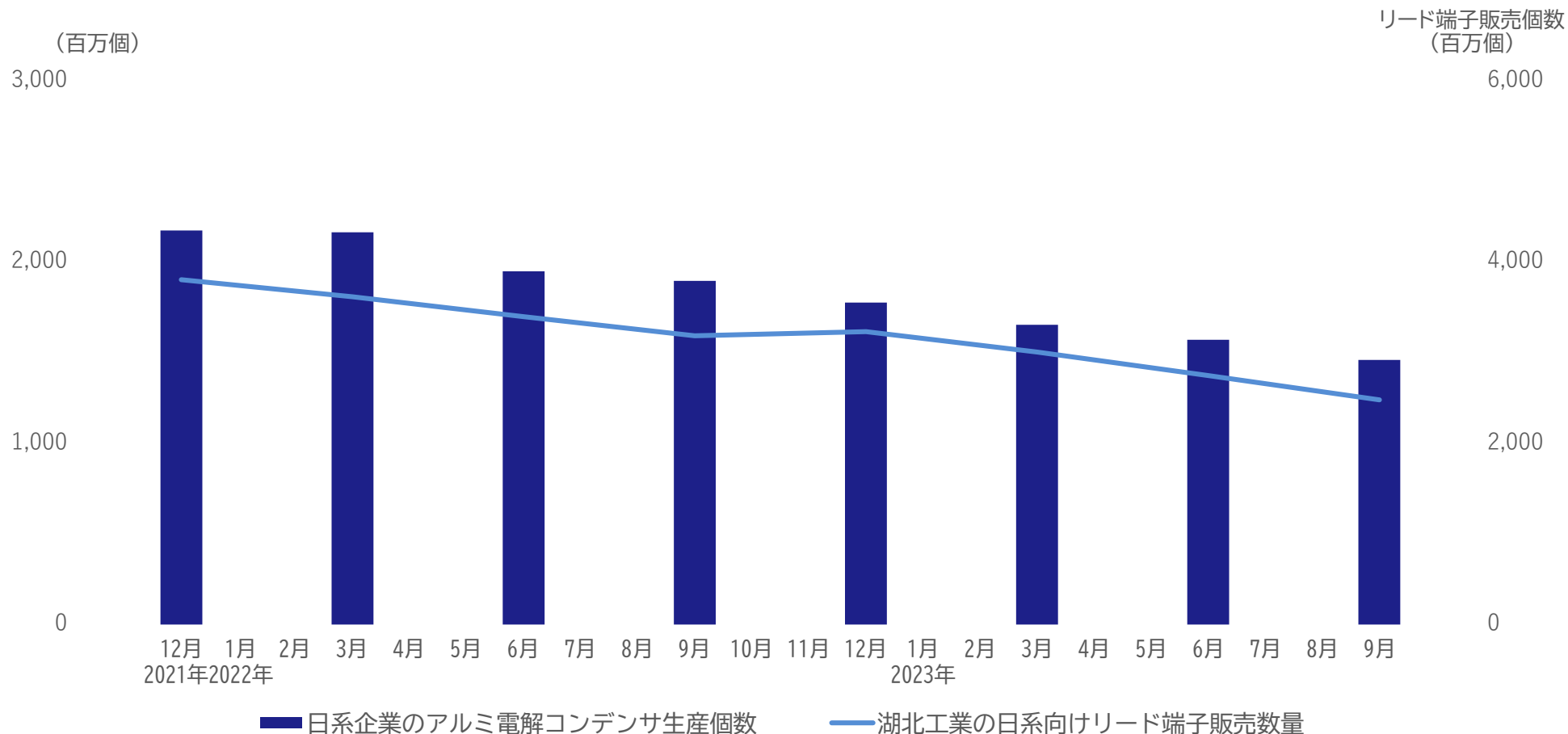
2. 当社の経営環境

	当初（2月時点）コメント	8月（第2四半期決算発表）時点の状況	現在の状況と今後の見通し
(1) 生産	● 2023年7月～9月まで蘇州工場での生産停止、10月から生産回復の見通し	➢ 8月から量産出荷。9月からフル生産に移行の予定であったが、工場承認の関係で、フル生産は10月より	➢ 10月からフル生産に移行完了
	● 蘇州工場で6月迄の在庫積上げ、在庫販売、及び東莞・マレーシア工場への設備移動、増産	➢ 6月から在庫取り崩しによる販売を継続し、9月中にすべて解消	➢ 予定通り9月迄に在庫の正常化を完了
	● 蘇州工場の移転に伴い、海外生産比率を、蘇州：東莞：マレーシア＝5：2：2→3：3：3に変更	➢ 10月から3：3：3の生産体制に移行	➢ 移行済
	● 移転に伴うコスト負担は約5億円	➢ 計画通り変更なし	➢ 変更なし
(2) 売上	● ハイブリッドコンデンサの伸びに合わせて、新商品のバリレスタイプを大幅増産（全拠点）し、新商品の比率を20%へ一気に引き上げる	➢ 「バリレス」の評価に想定以上に時間がかかったが、導入が進んだ。新商品比率を引き上げ、23.12期末で約15%を予想	➢ バリレスの採用増加（主要顧客が採用する方向で評価中）
	● バリレス以外の新商品についても車載市場の伸びに応じ、後半の増加を想定	➢ EDLC向けの採用が想定以上に拡大	➢ クルマの重要部位、産業機器向けなどにEDLC向け拡大続く
	● 車載向けEDLC（電気二重層キャパシタ）向けが、徐々に拡大		
(3) 技術	● リード端子技術の要となる新溶接技術の開発に着手（2024年実用化を目標）	➢ イスラエルのアリエル社との新溶接技術の共同開発を推進	➢ 順調に継続開発中
	● 高速回転化（300rpm→350rpm）、可動率（85%→90%）、OEE（設備総合効率）（83%→90%）	➢ 高効率・高精度を実現する新溶接技術、新金型技術を開発	➢ 順調に継続開発中

2023年12月期(3Q)の事業環境

日系企業のアルミ電解コンデンサの生産個数は、昨年夏からの悪化傾向が続く

小型アルミ電解コンデンサ 市場生産推移（日系）（海外生産分を含む）



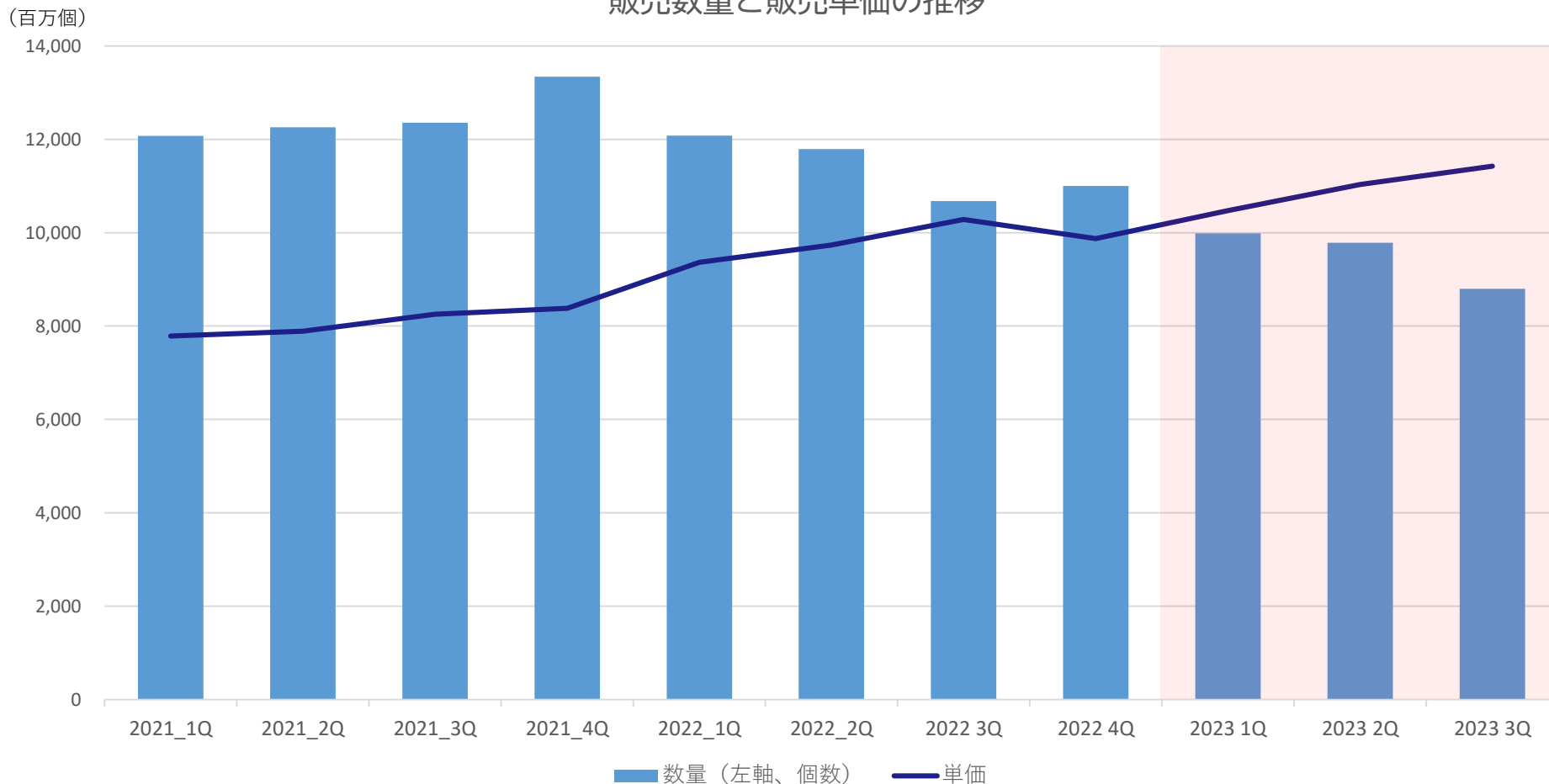
※数字は各月単月の数字

(出所：湖北工業調べ)

販売数量、販売単価の動向

- ・市場環境は厳しい状況が続く
- ・4月からの価格是正実行により平均販売単価が改善

販売数量と販売単価の推移

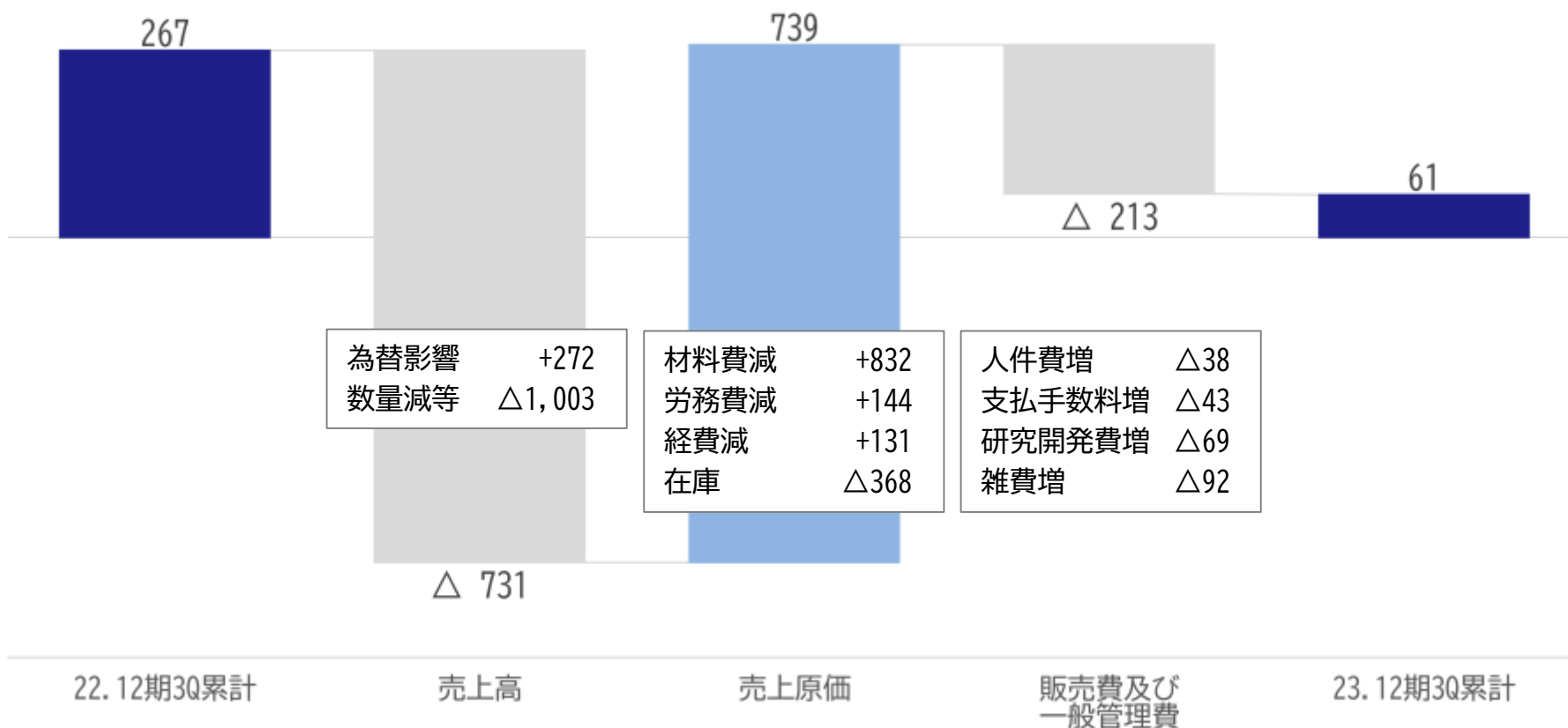


セグメント別

営業利益(3Q累計)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

売上の大幅悪化を価格是正とコストダウンである程度カバーした

(百万円)

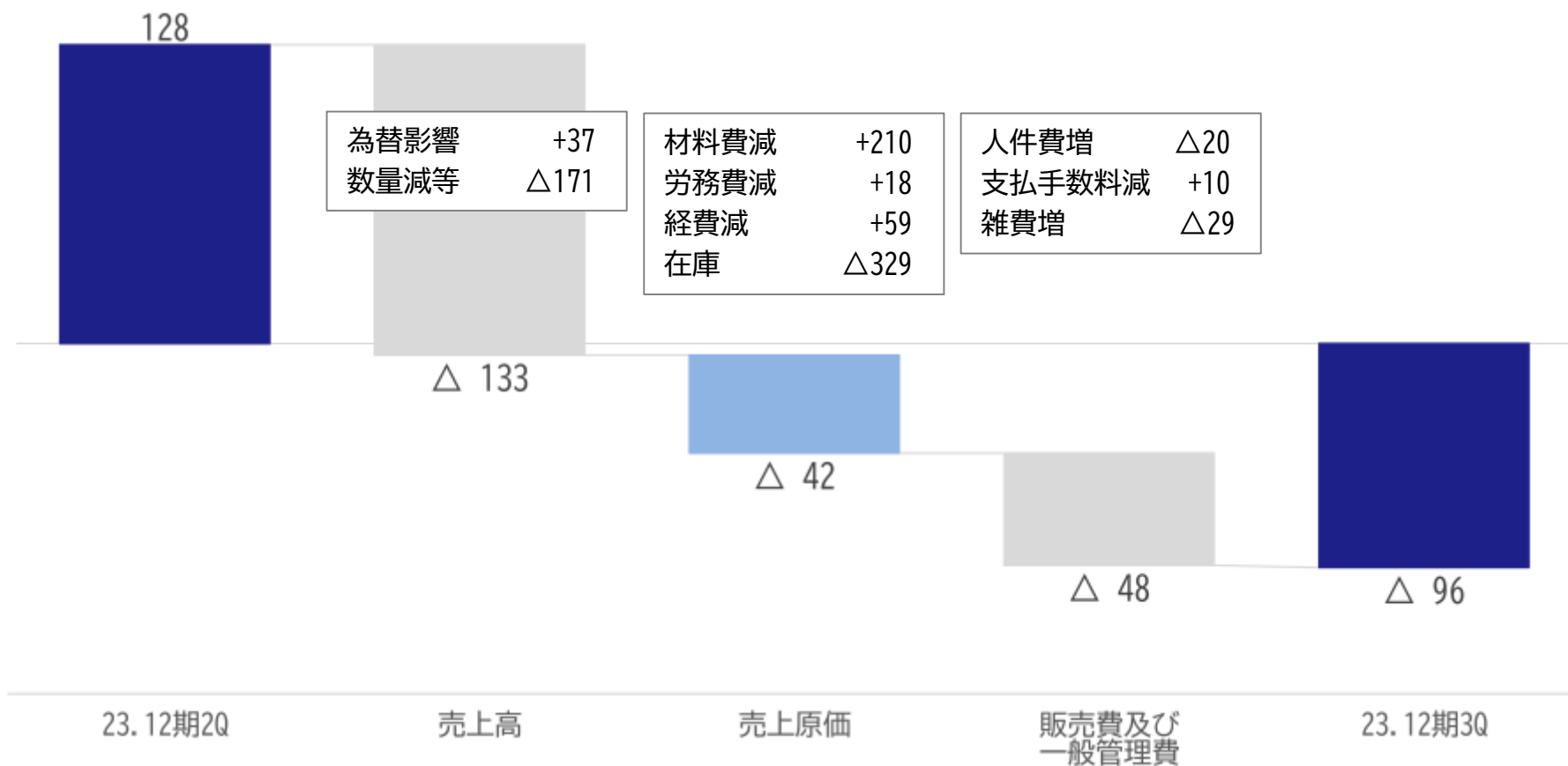


セグメント別

営業利益(3Q)の増減要因（前四半期比） - リード端子

市況悪化が続き売上は低迷、価格是正効果でカバーしきれず若干の赤字

(百万円)

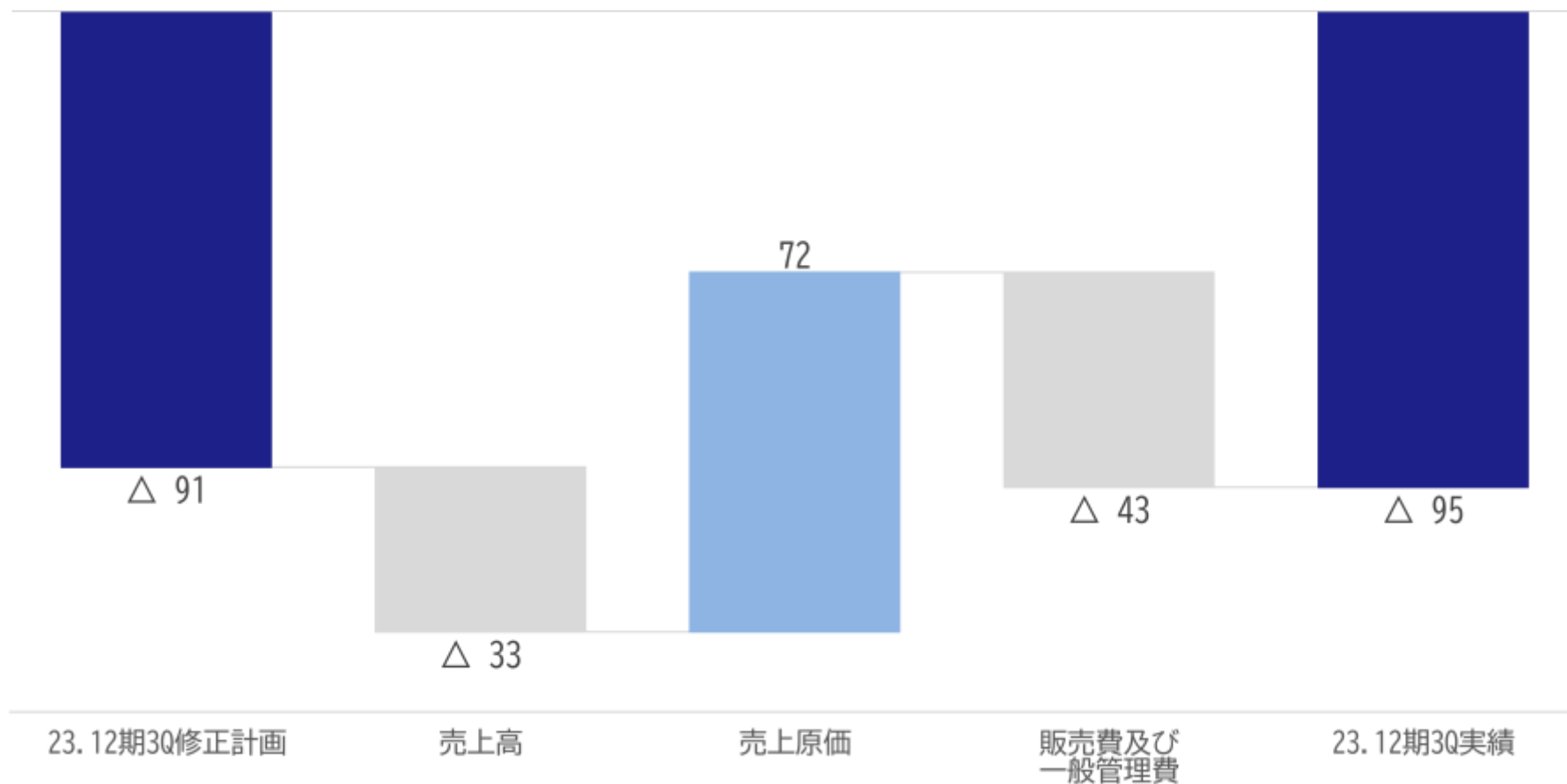


セグメント別

営業利益(3Q(7~9月))の増減要因 (計画比) - リード端子

売上原価は圧縮したが、売上が下押しした

(百万円)



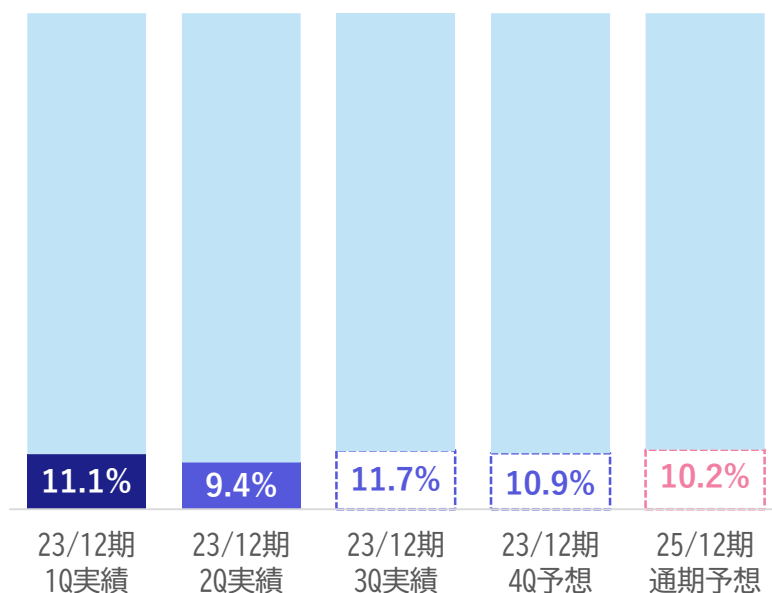
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

1. 新商品の売上比率の改善

新商品の売上比率

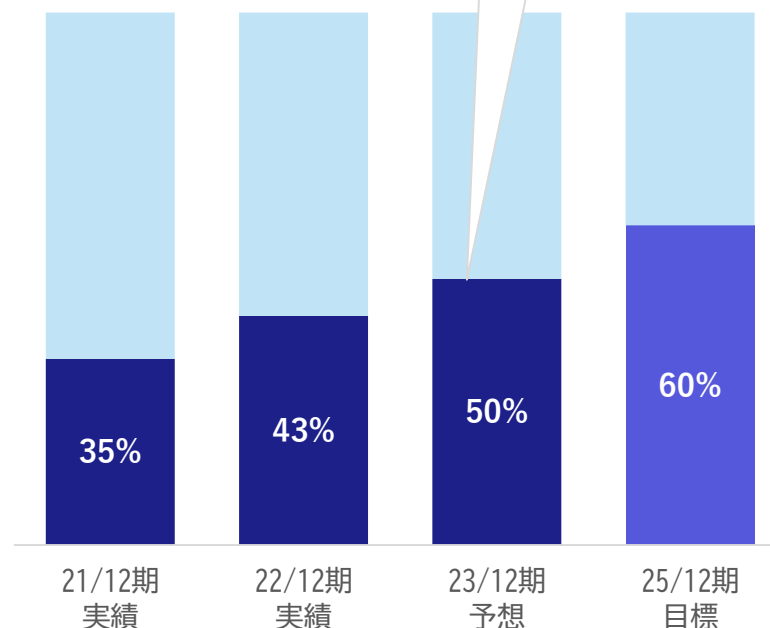


「バリレス」タイプの生産体制を強化、車載用ハイブリッドコンデンサ向けに重点拡販



自動車市場向け売上比率（推定値）

第3四半期の自動車向け売上高比率は、前期（43%）から若干上昇していると推測



顧客の評価が想定以上の遅延。売上比率は予想を下回る見通し

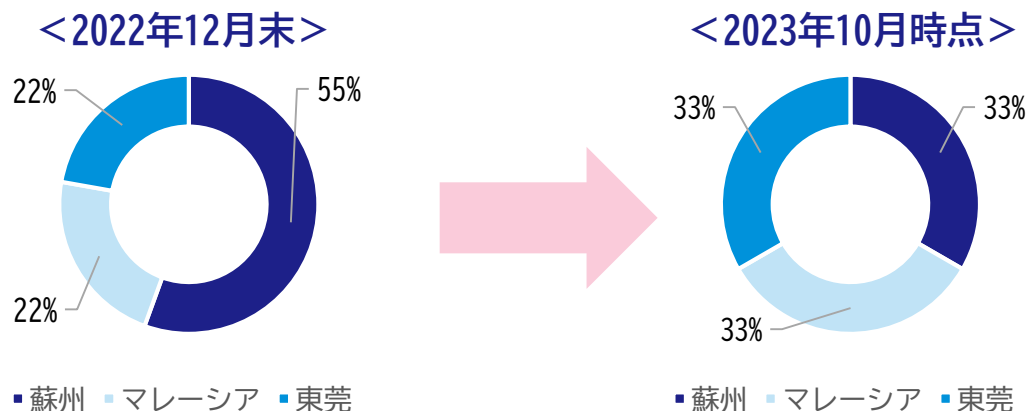
基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現

2. 顧客別の価格是正交渉進捗状況ほか

	当初（2月時点）コメント	8月（第2四半期決算発表）時点の状況	現在の状況と今後の見通し
(1)価格是正	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要顧客に対して： 3月までに価格是正交渉完了 4月から実行し、利益改善効果を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画通り実行済み 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 1Q→3Qで限界利益率が改善
(2)価格スライド制	<ul style="list-style-type: none"> ● 全主要顧客に対して： 材料価格スライド制導入。スライド算定期間の短期化（最長6ヶ月⇒最長3ヶ月） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スライド算定期間を原則2か月～3か月に短縮 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 材料価格に大きな変化なし

3. 生産体制のリロケーション進捗状況

- ✓ 当初計画より移転を前倒しを予定していたが、工場承認の関係で当初計画通りとなった
- ✓ 5月末に既存工場での生産を停止。6月設備移管完了。7月から立ち上げ。10月からフル生産に移行
- ✓ 在庫積み上げは蘇州工場出荷分の4か月程度積み上げを5月までに完了



セグメント別業績(3Q累計) - 光部品・デバイス

海底ケーブル向けはサプライチェーンの混乱は解消されているが、顧客の調達先送りが大きく響き、減収減益

(単位：百万円)

	2022年12月期	2023年12月期			2023年12月期				
	3Q (1月-9月)	3Q (1月-9月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対直前四半期 増減	直前四半期比
売上高	5,589	4,774	△814	△14.6%	1,656	1,577	1,539	△38	△2.4%
営業利益	2,847	2,233	△614	△21.6%	817	711	704	△6	△0.9%
営業利益率	51.0%	46.8%	△4.2pt	—	49.3%	45.1%	45.8%	+0.7pt	—

2023年12月期(3Q累計)の概況

● 在庫調整の影響が続く

- 海底ケーブル向けは、サプライチェーンの混乱は解消されたが、在庫調整の影響大
- 陸上向けは、米中摩擦に伴う禁輸措置とデータセンター需要の低迷により、極めて厳しい状況が続く

● 研究開発と生産性向上に向けた投資

- 新製品開発、自動化ラインの導入などの施策は順調に進捗
- 10月にKDDI総合研究所と共著のマルチコアファイバ技術に関する論文を、学会で発表
「次世代海底中継器用4コアファイバ用光アイソレータ」を開発、2024年のサンプル出荷を目指す

市場環境・経営環境について、当初想定vs現在の状況比較 - 光部品・デバイス

1. 市場環境、受注動向

	当初（2月時点）コメント	8月（第2四半期決算発表）時点の見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 海上ケーブル市場は高速大容量化の傾向が継続することから引き続き堅実な市場成長を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 上期のサプライチェーン混乱の影響は概ね解消 ➢ コンソーシアムプロジェクトの増加により、敷設がやや遅延 ➢ 陸上向けは、米中摩擦に伴う禁輸措置などにより非常に厳しい状況が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ サプライチェーン混乱の影響は3Qまでに収束し、回復傾向 ➢ 一部のケーブルプロジェクトが変更・遅延 ➢ 陸上向けは米中摩擦やデータセンター需要悪化により低迷が続く

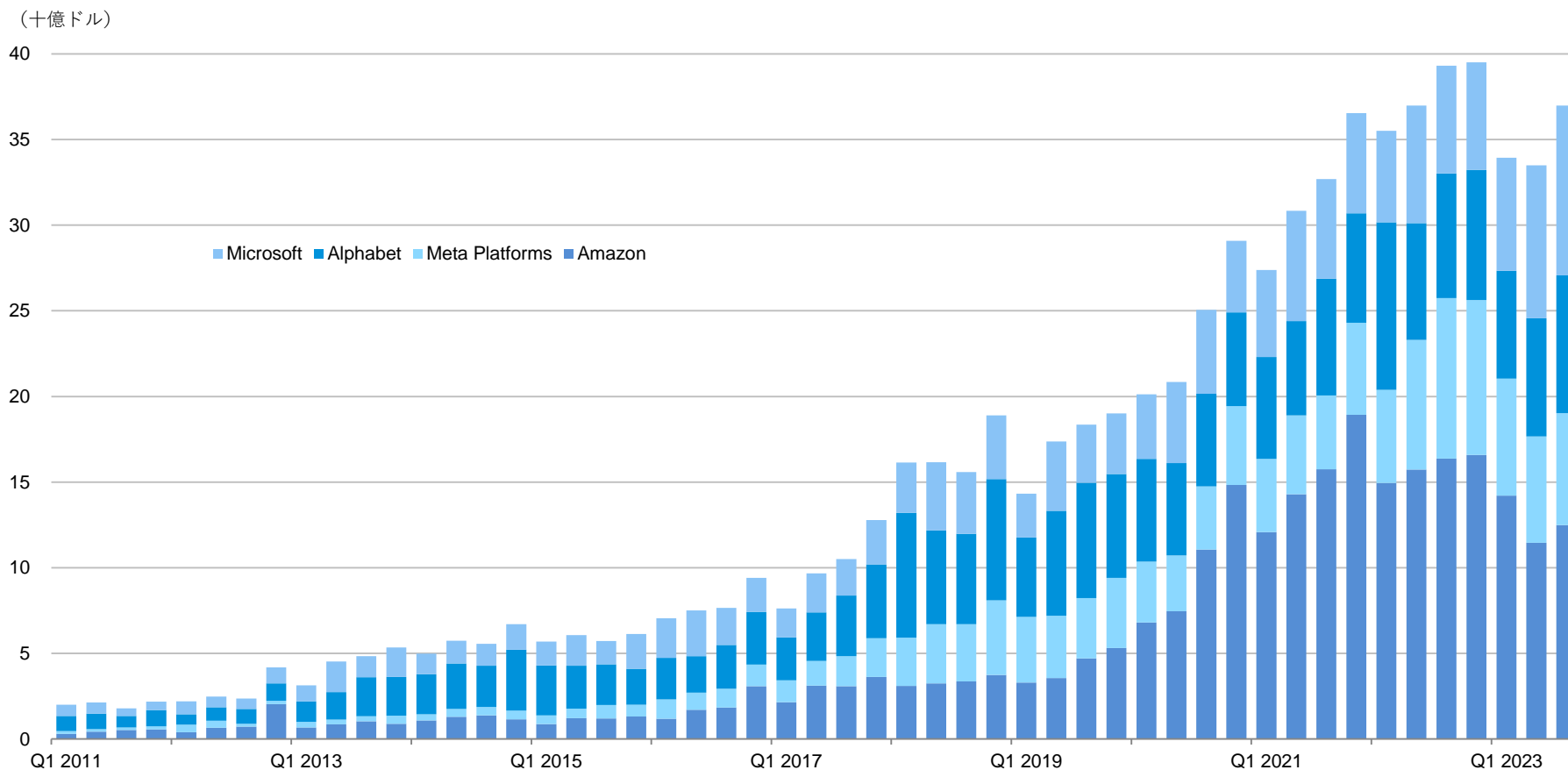
2. 当社の経営環境

	当初（2月時点）コメント	8月（第2四半期決算発表）時点の見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 32FP以上に対応した新製品開発 ● マルチコアファイバ/宇宙通信光デバイスなど2030年以降に向けた技術開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 32FP対応の新製品サンプルを2024年に出荷開始（2023～2025年にかけて順次量産予定） ➢ マルチコアファイバ用光デバイスのサンプル出荷を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 予定通り開発進行中 ➢ 一部顧客へのサンプル（プロトタイプ）出荷をスタート
(2)生産性ほか	<ul style="list-style-type: none"> ● 半自動生産装置の導入 ● BCP体制を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2024年からスリランカ工場で本格量産をスタート ➢ 光デバイスの前工程拠点（本社工場）にて洪水対策完了 本社BCP体制強化（2023年5月） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 量産に向けて半自動生産装置を増設予定

2023年12月期(3Q)の事業環境

海底ケーブルの投資を積極的に行ってきたGAFAの投資抑制が2023年から顕著に

GAFAMの設備投資

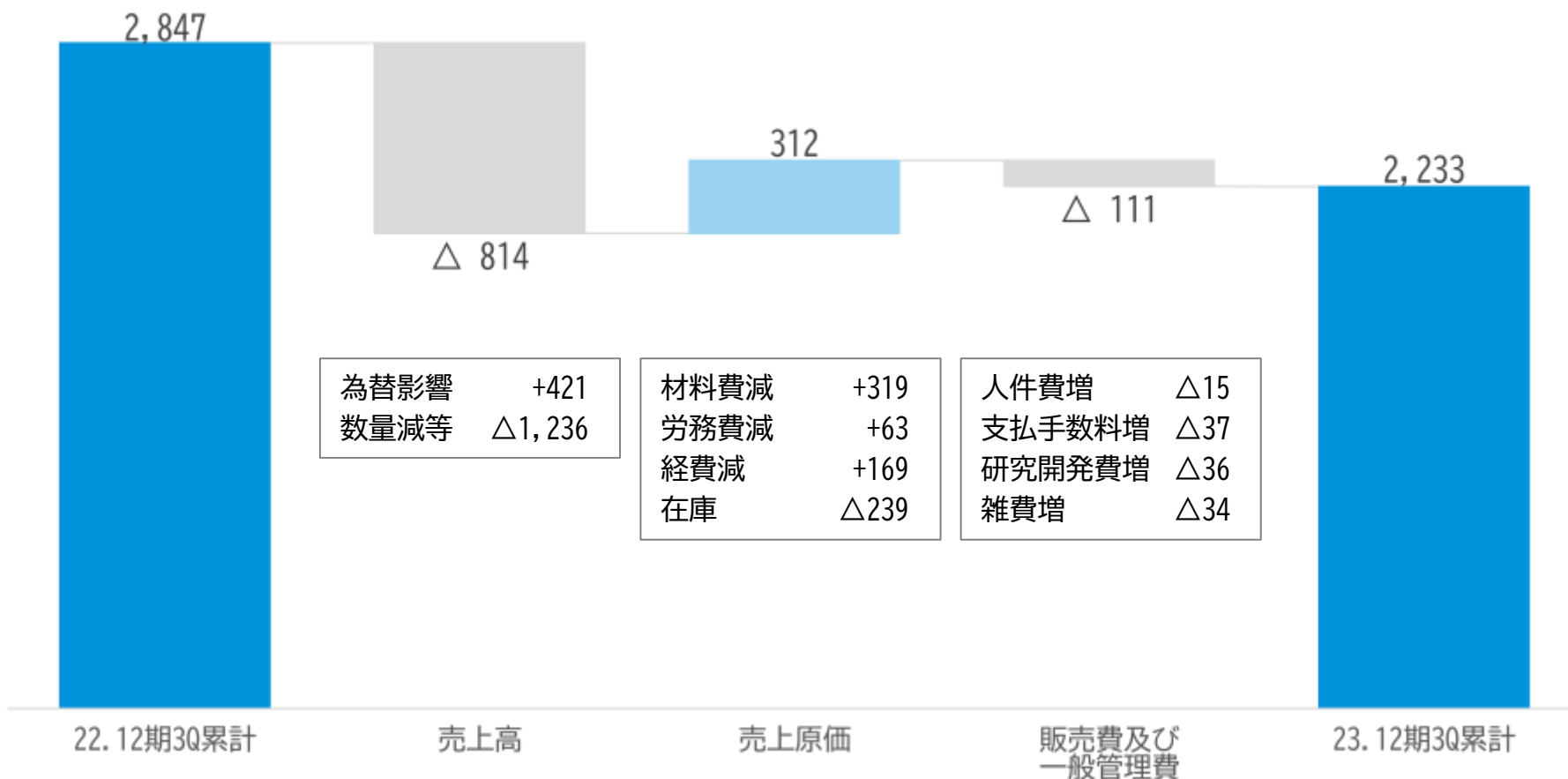


(出所：会社資料)

セグメント別 営業利益(3Q累計)の増減要因 (前年同期比) - 光部品・デバイス

顧客の生産調整の影響が大きく、減収減益

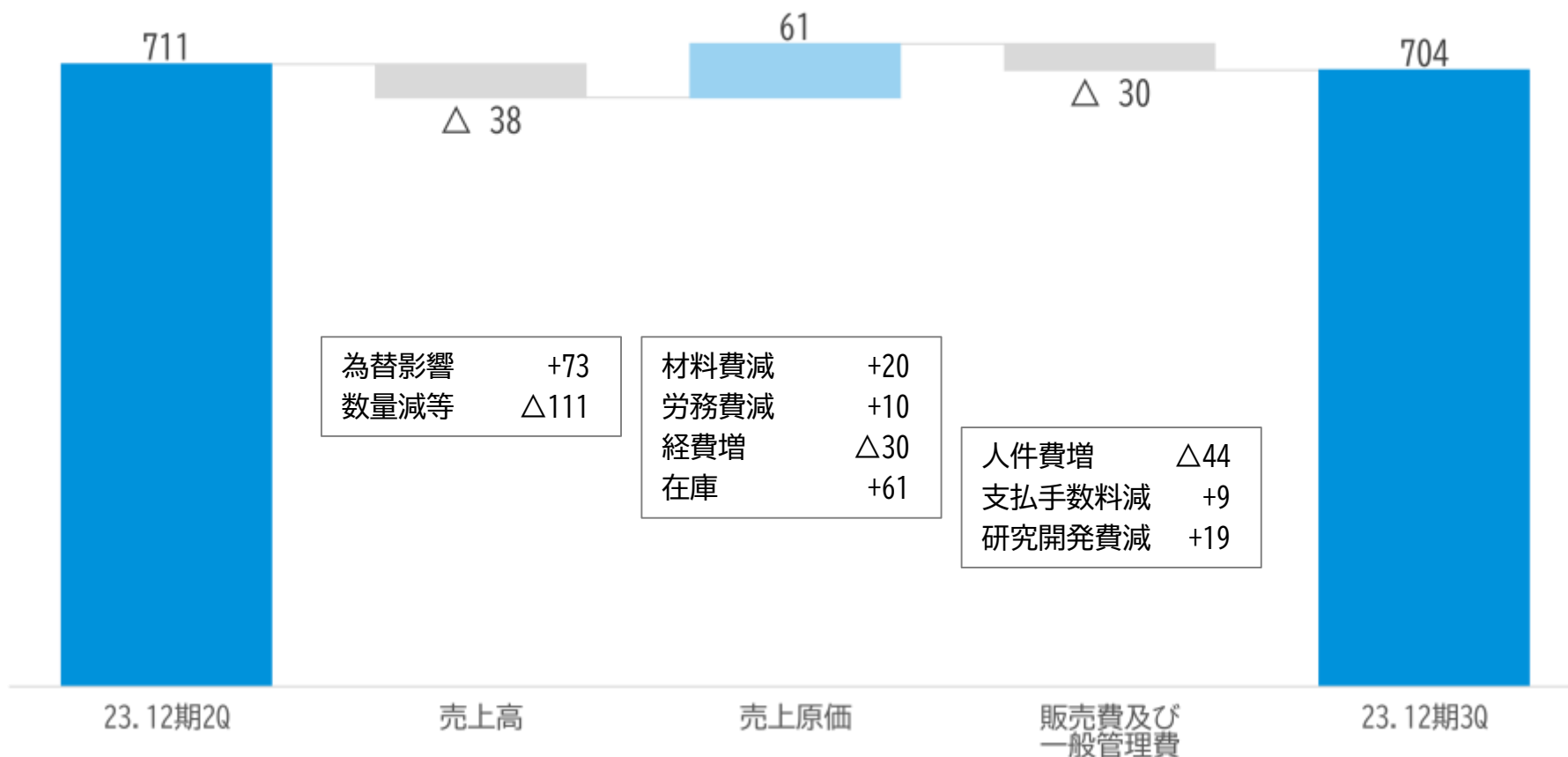
(百万円)



セグメント別 営業利益(3Q(7~9月))の増減要因 (前四半期比) - 光部品・デバイス

陸上用光通信デバイスを中心に数量減少

(百万円)

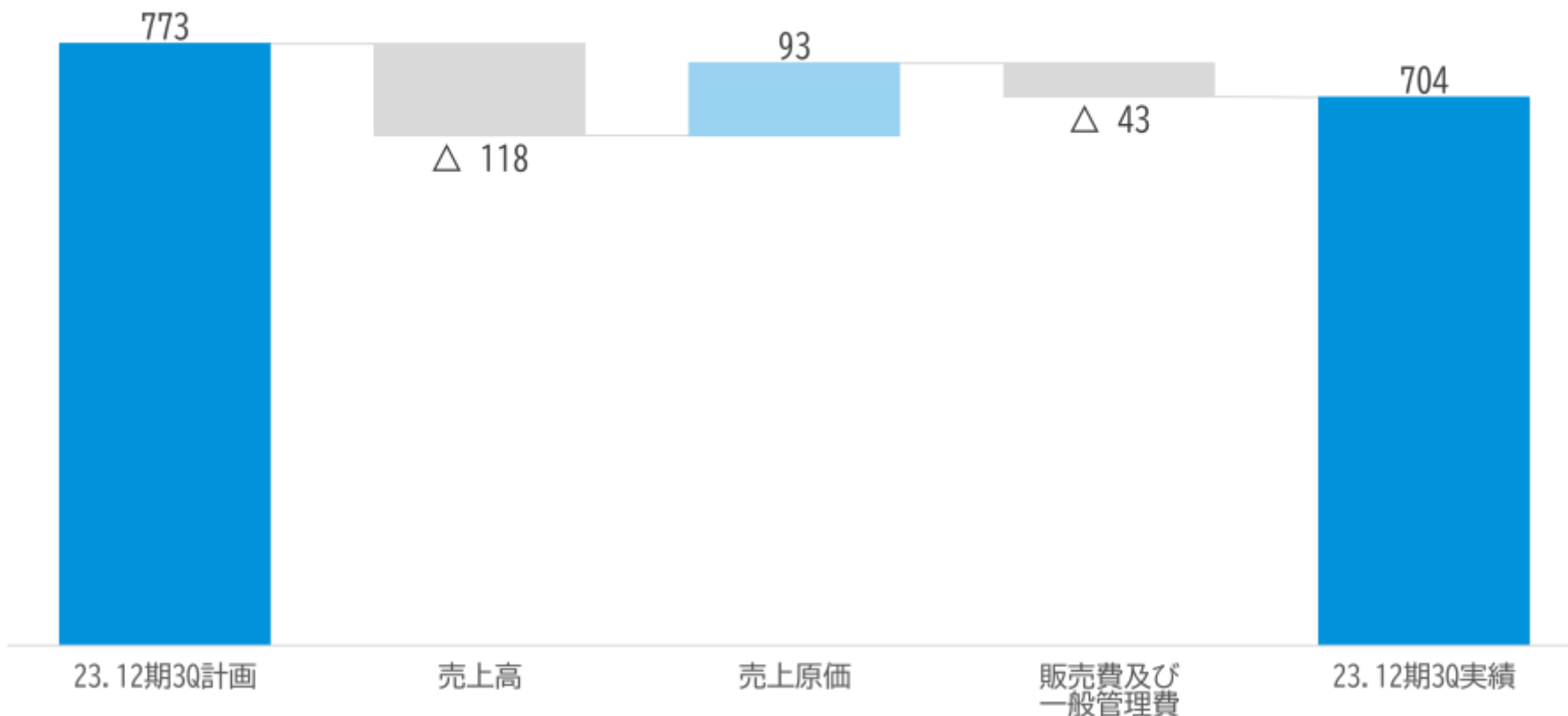


セグメント別

営業利益(3Q(7~9月)累計)の増減要因 (計画比) - 光部品・デバイス

海底用・陸上用共に低調な市場動向が続く

(百万円)

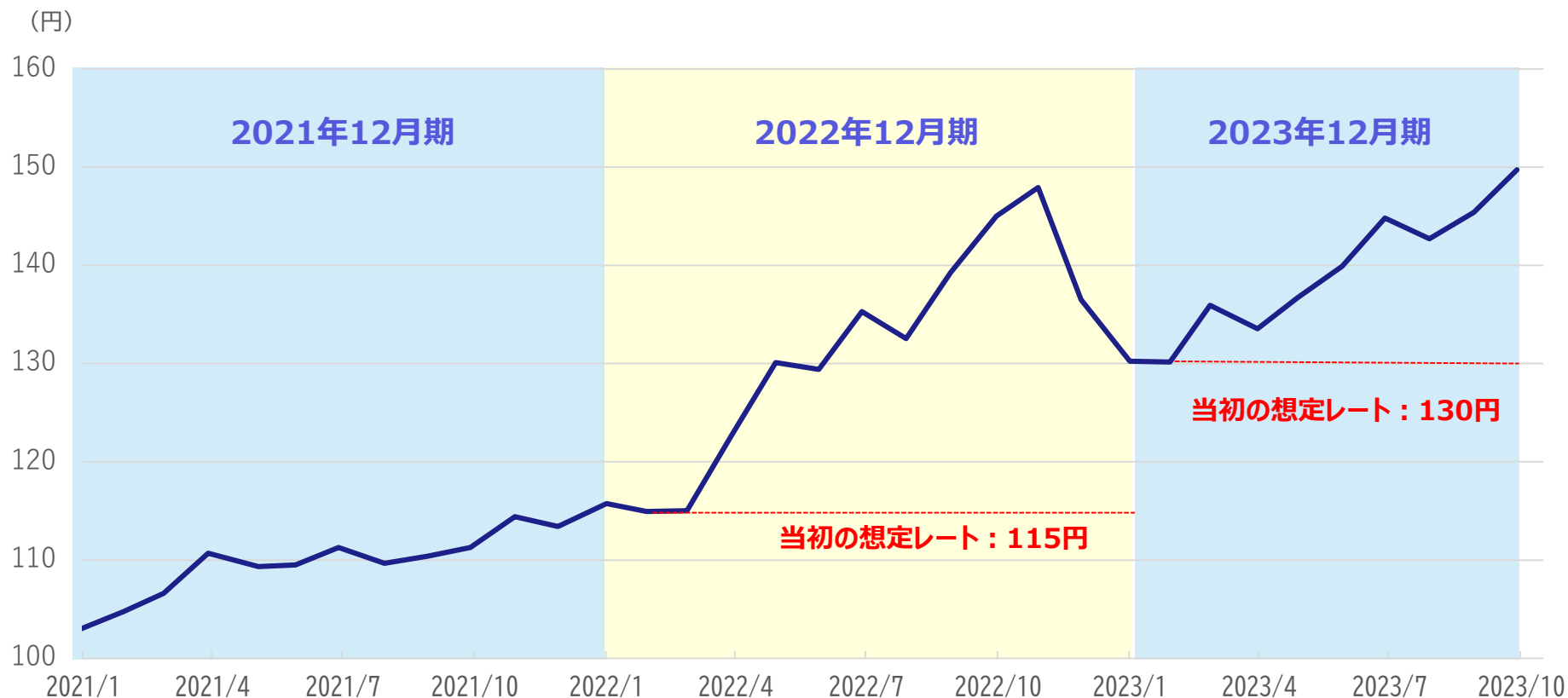


III. 參考資料

2023年12月期(3Q累計)の事業環境

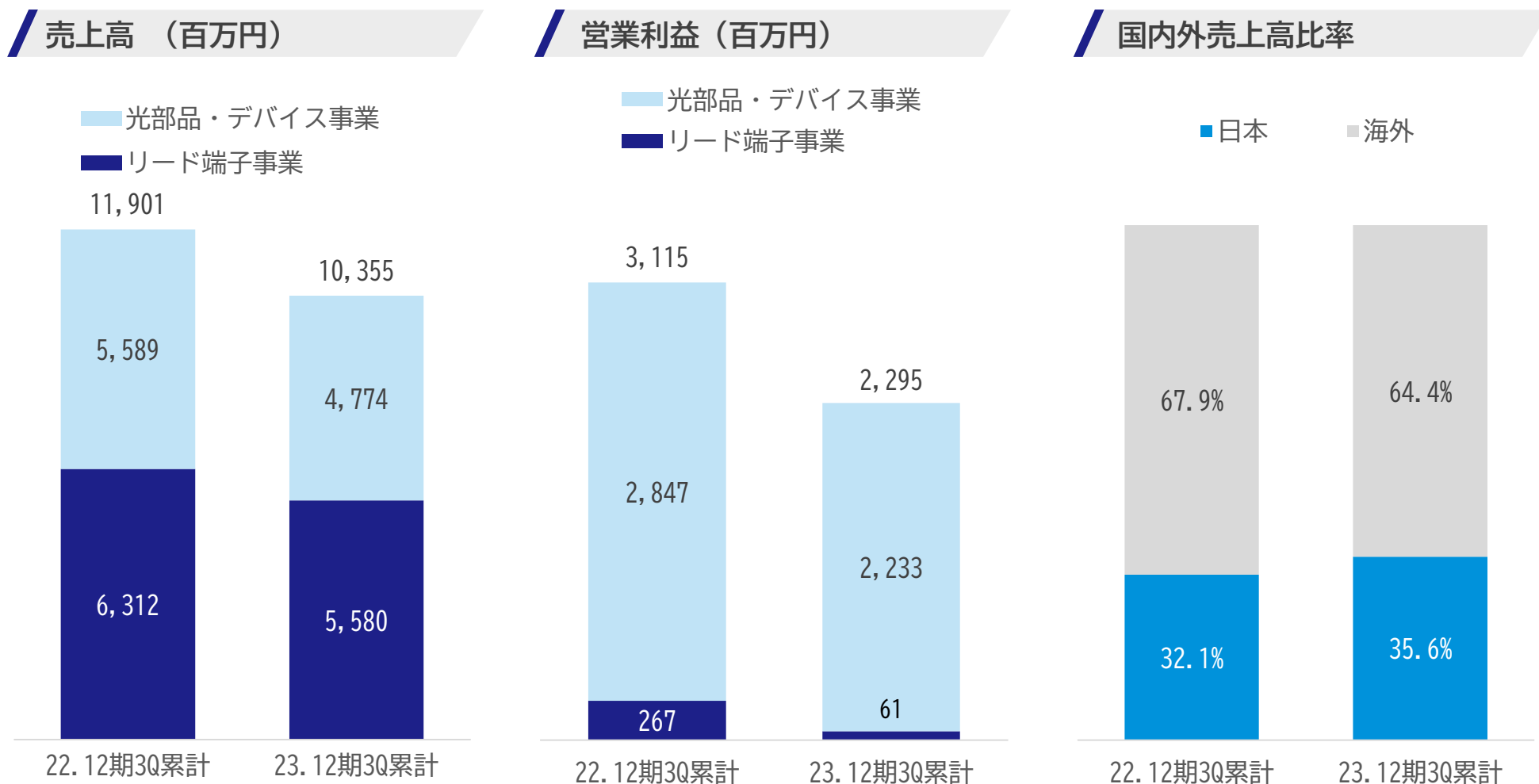
1-9月の期中平均レートは、138.24円/USDとなり、想定為替レートよりやや円安で推移

USD/JPYトレンドグラフ



セグメント別業績及び国内外売上高比率(3Q累計)

リード端子、光部品・デバイスともに売上は前期比10%前後の減少



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転し、大きな変動がなく推移

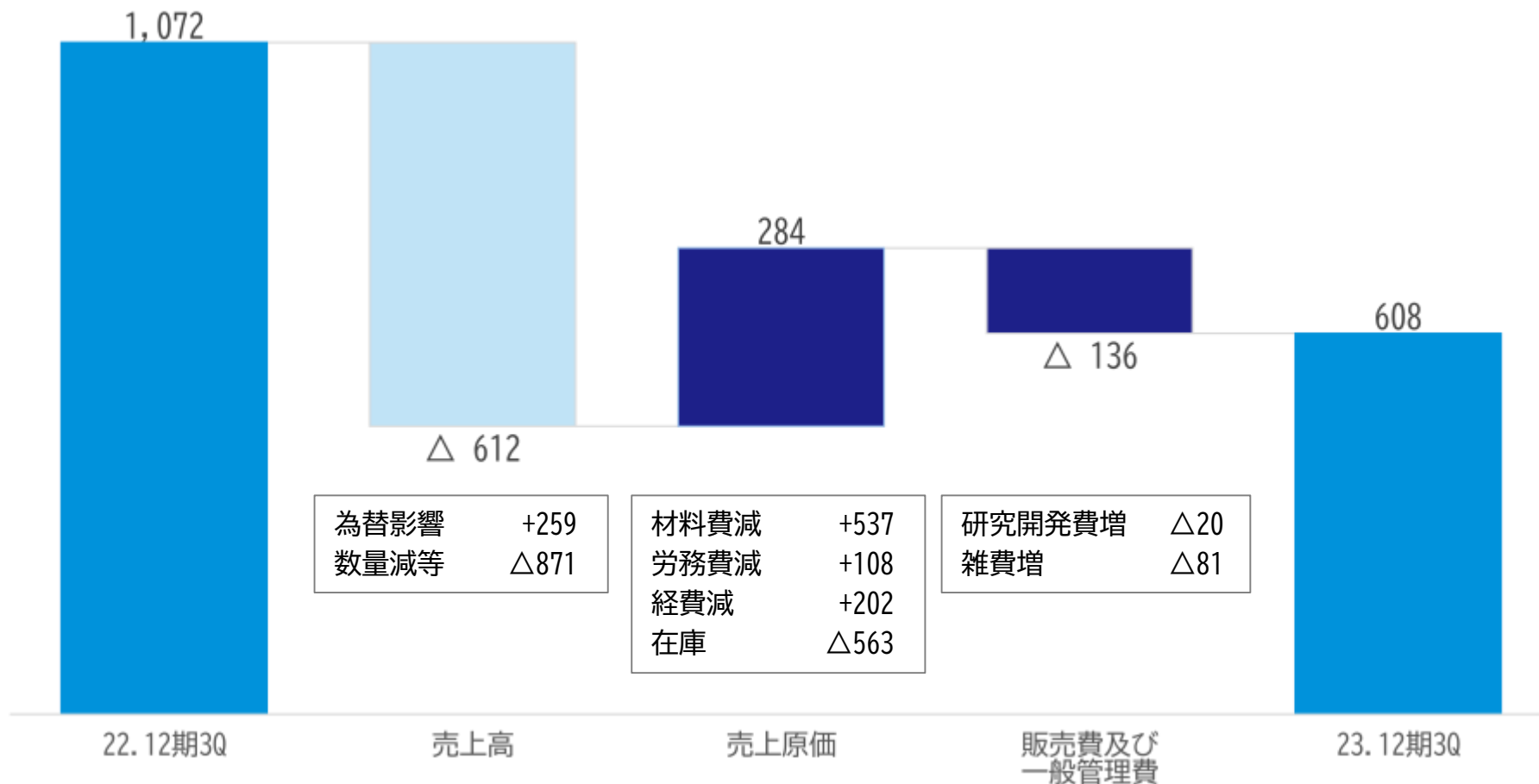
非鉄金属相場（LME）の推移



営業利益3Q(7~9月)の増減要因 (前年同期比)

売上減少の影響が大きいものの、原価の低減により一部リカバー

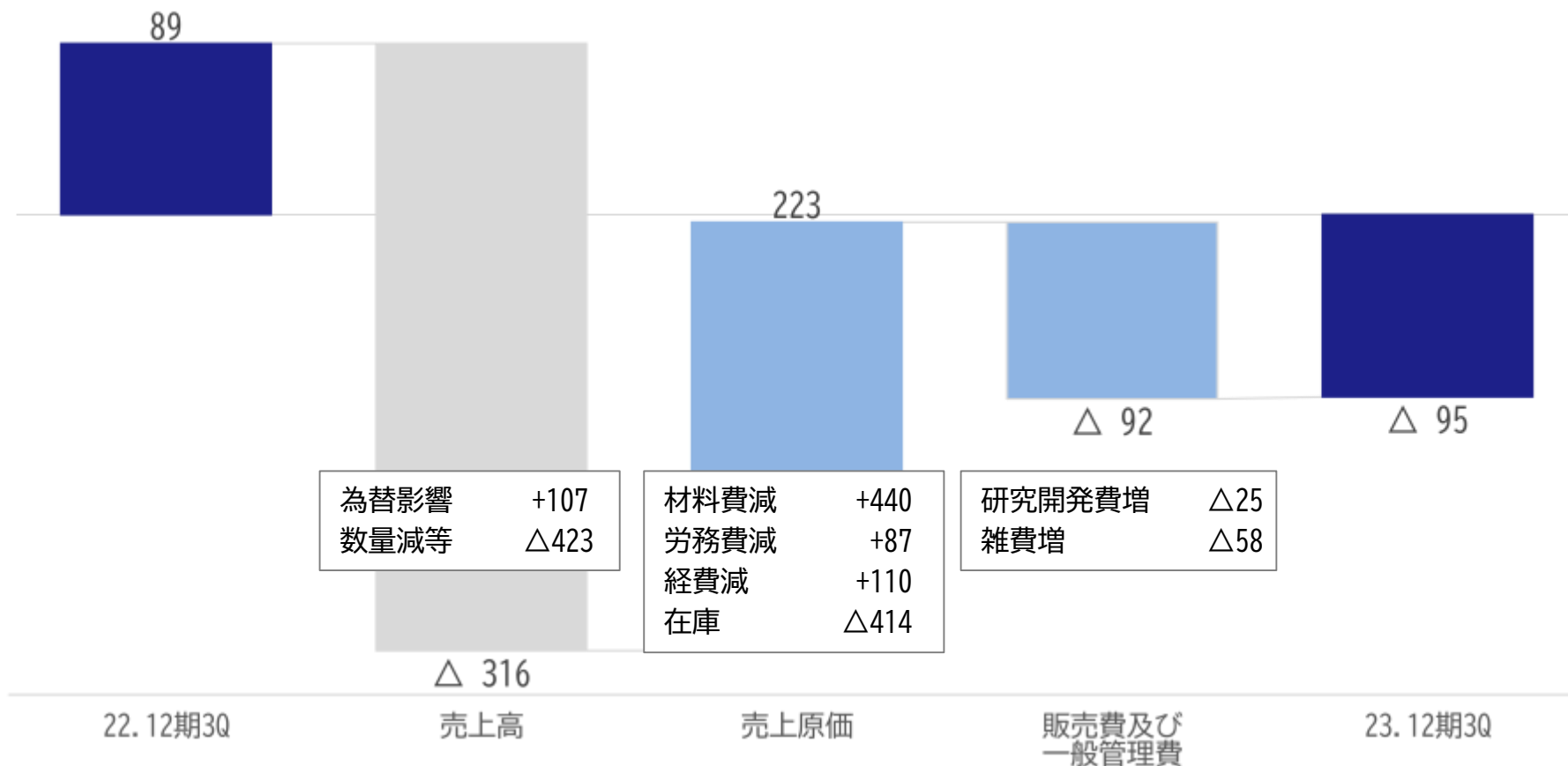
(百万円)



営業利益3Q(7~9月)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

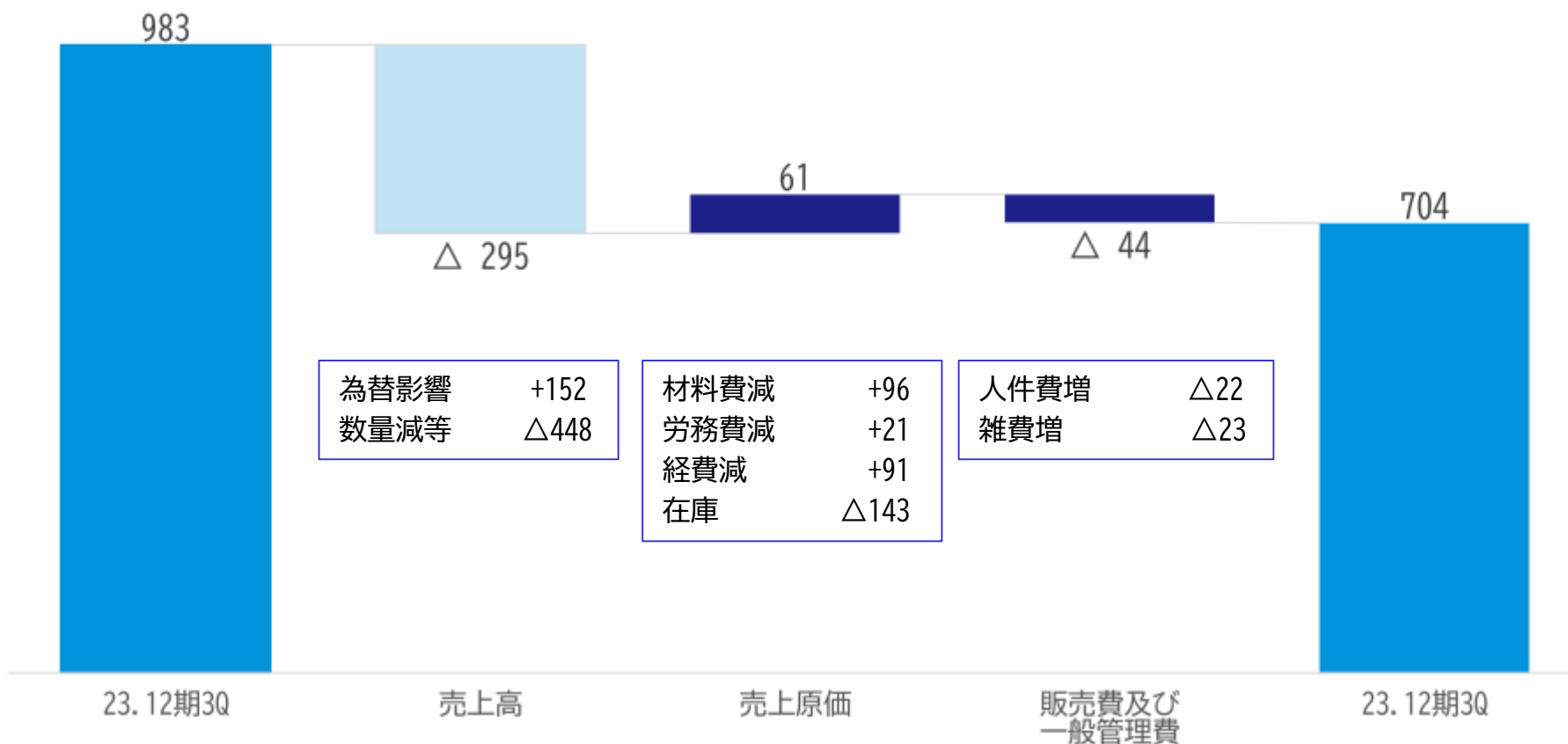
売上原価を抑えるも、市場環境が想定以上に厳しく、売上減が大きく響く

(百万円)



営業利益3Q(7~9月)の増減要因（前年同期比） - 光部品・デバイス

前年同期に比べ、陸上用・海底用ともに数量減が大きく影響



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR室

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217